

2023年2月期 第3四半期決算

イオン株式会社

2023年1月13日

- ・ (3Q) 原材料高・電気代 (エネルギーコスト) 高騰は想定以上も、営業収益は過去最高を更新し、営業利益、経常利益は増益
- ・ (3Q累計) 営業収益、営業利益は**過去最高を更新。四半期純利益は前年改善**

(億円)

	3Q (3カ月)		3Q累計 (9カ月)	
	当期実績	前年比 ・差※1	当期実績	前年比 ・差※1
営業収益	22,346	106.1%	67,217	104.2%
営業利益	168	+53	1,126	+234
経常利益	122	+62	1,075	+236
親会社株主に帰属する 四半期純利益	-217	-81	-36	+52

収益認識基準適用影響 (3Q) 営業収益 -460億円、営業利益 -0.5億円、経常利益 -2億円
 (3Q累計) 営業収益 -1,324億円、営業利益 +7億円、経常利益 -1億円

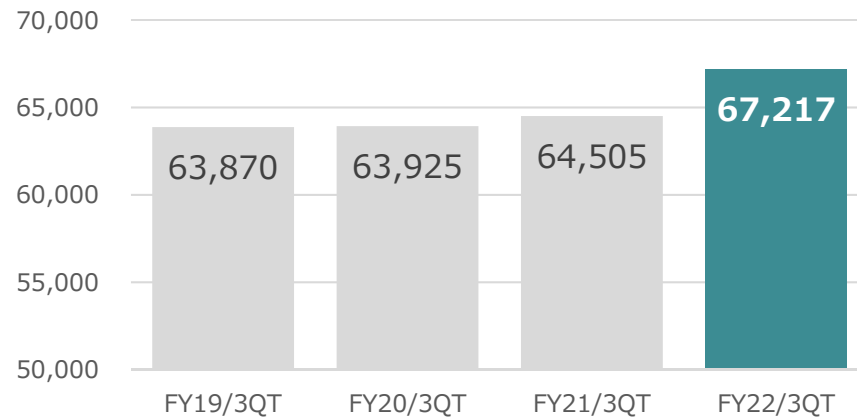
※1 旧収益認識基準の前年同期実績との対比

連結業績（3Q累計）



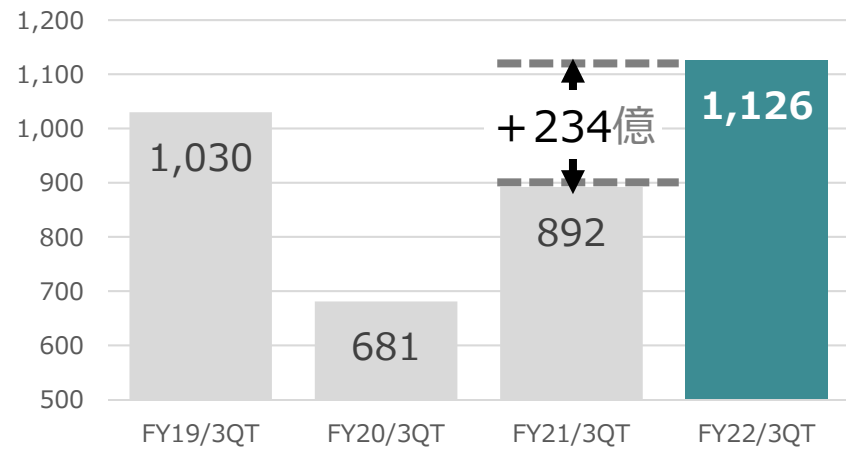
- ・営業収益並びに**すべての段階利益**がコロナ前19年度実績を上回る
- ・原材料高・電気代の上昇を売上回復と販管費のコントロールで吸収

【営業収益】

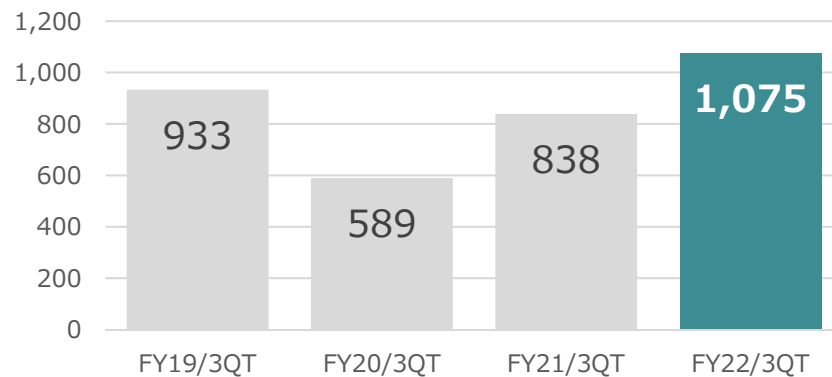


【営業利益】

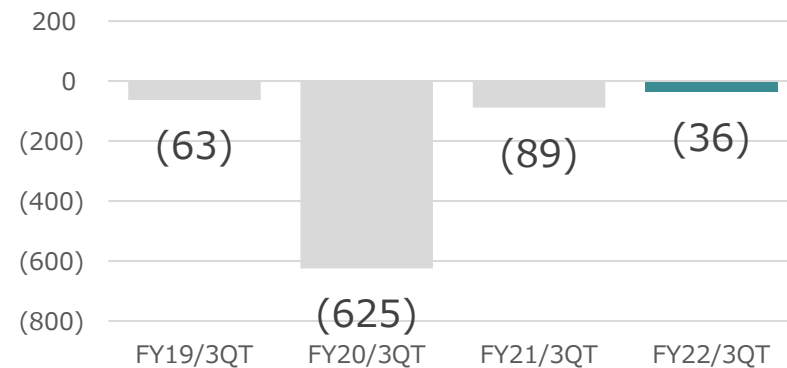
(億円)



【経常利益】



【四半期純利益】



セグメント別業績（3Q累計）



営業収益：5事業が増収
 営業利益：5事業が増益・損益改善

【セグメント別業績】

（億円）

	営業収益	前年比	営業利益	前年差
連結	67,217	104.2% ※	1,126	+234 ※
GMS	23,916	98.4%	-148	+140
サービス・専門店	5,668	110.8%	60	+103
国際	3,703	122.4%	89	+82
ディベロッパー	3,281	121.3%	333	+49
ヘルス&ウエルネス	8,500	111.8%	308	+19
DS	2,857	98.1%	12	0
総合金融	3,343	95.5%	426	-38
SM	19,598	103.8%	74	-90

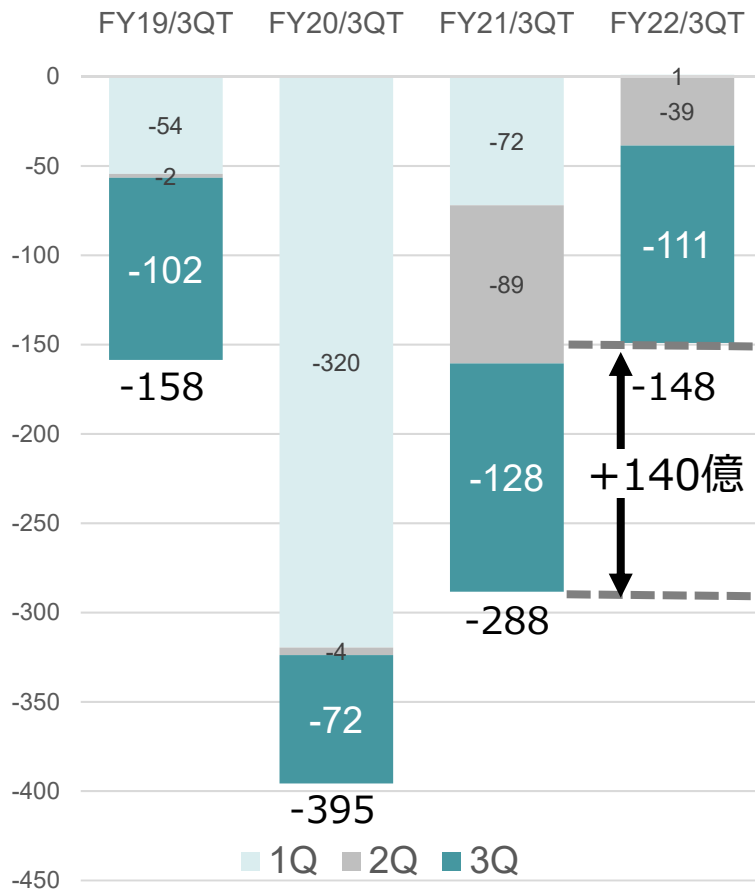
セグメント別実績の概況

GMS事業（3Q累計）

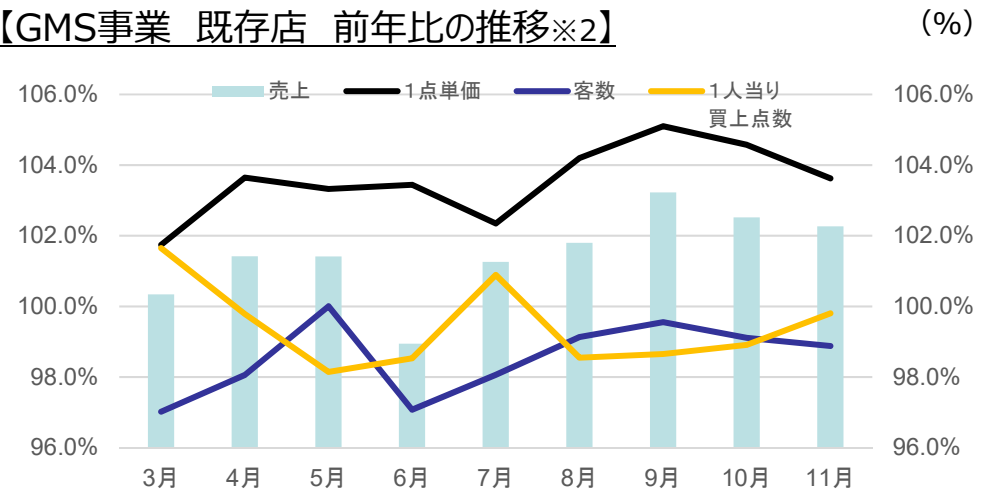


- ・前年からの損益改善は140億円。コロナ前の損益水準も上回る
- ・成長カテゴリーやトップバリュの取り組みを強化するH&BC、食品がけん引

【セグメント利益※1】



【GMS事業 既存店 前年比の推移※2】



【イオンリテール 既存店売上高前年比、直営荒利率前年差】 (%)

	衣料	食品	住居余暇	HBC	会社計
売上既存比	105.0	100.5	96.6	103.6	101.3
荒利率前年差	+2.1	+0.1	-0.1	+1.7	+0.6

【イオンリテール トップバリュ 食品売上前年比】 (%)

	3Q	3Q累計
前年比	108.2	106.7

※1 過年度実績はセグメント移動会社を調整

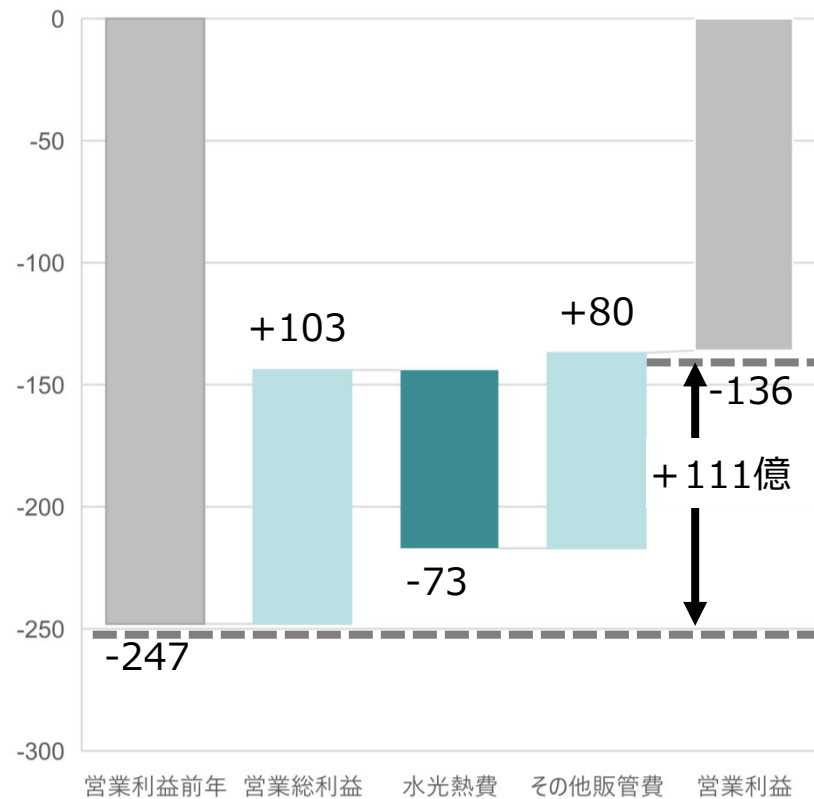
※2 イオンリテール、イオン北海道、イオン東北、イオン九州、イオン琉球などの既存店売上

GMS事業(イオンリテール) (3Q累計)



- ・構造改革による在庫削減と固定費圧縮等が奏功し大幅増益
- ・電気代単価上昇影響を使用量削減と販管費総額のコントロールで吸収

【営業利益増減※】



(億円) 【直営売上総利益率※】

	2022	2021	前年差
3Q累計	28.0	27.6	+0.4

【ライン別在庫回転日数※】

	衣料	食品	住居余暇	HBC	会社計
2019.3Q累計	117.7	11.2	122.8	67.4	46.0
2022.3Q累計	92.0	8.6	102.8	61.3	32.7

【水光熱費前年差※】

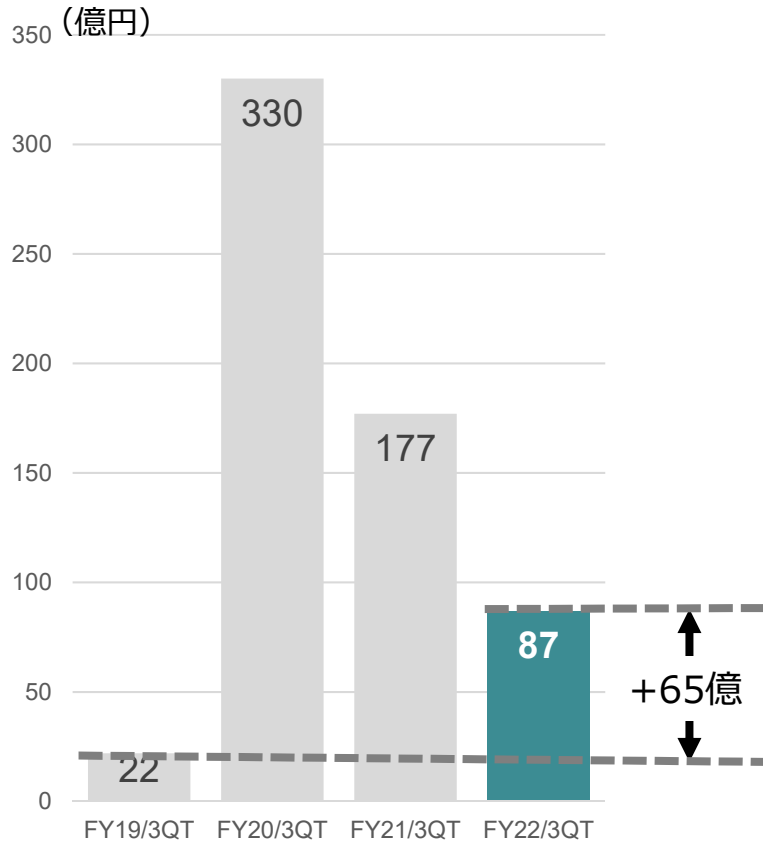
	2022.1Q	2022.2Q	2022.3Q
水光熱費前年差	+19億円	+24億円	+30億円

SM事業/DS事業（3Q累計）

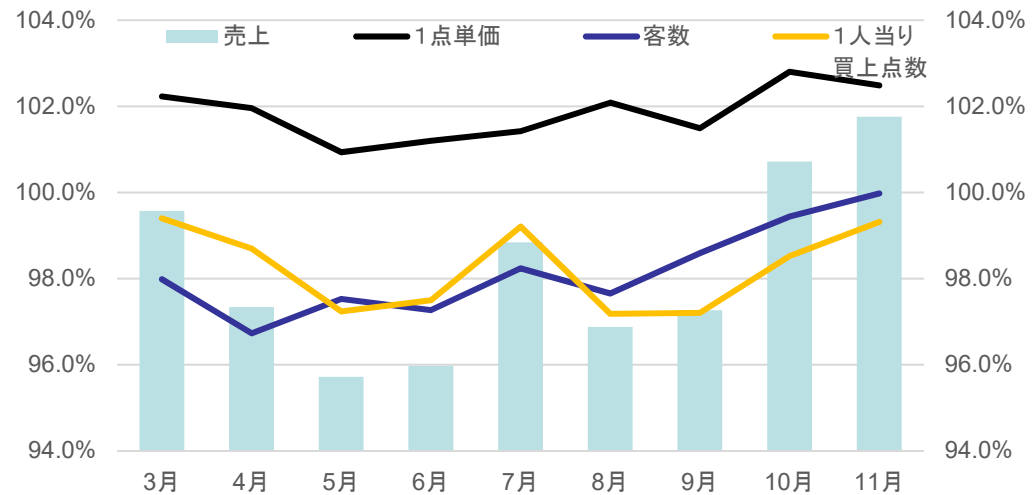


- ・原材料高・電気代の上昇影響を受けるもコロナ前比較では65億円の増益
- ・巣ごもり消費の落ち着き影響が底を打ち、第3四半期の売上・客数は回復基調

【セグメント利益※1】



【SM事業 主要各社既存店 前年比の推移】



【SM/DS事業 水光熱費前年差】



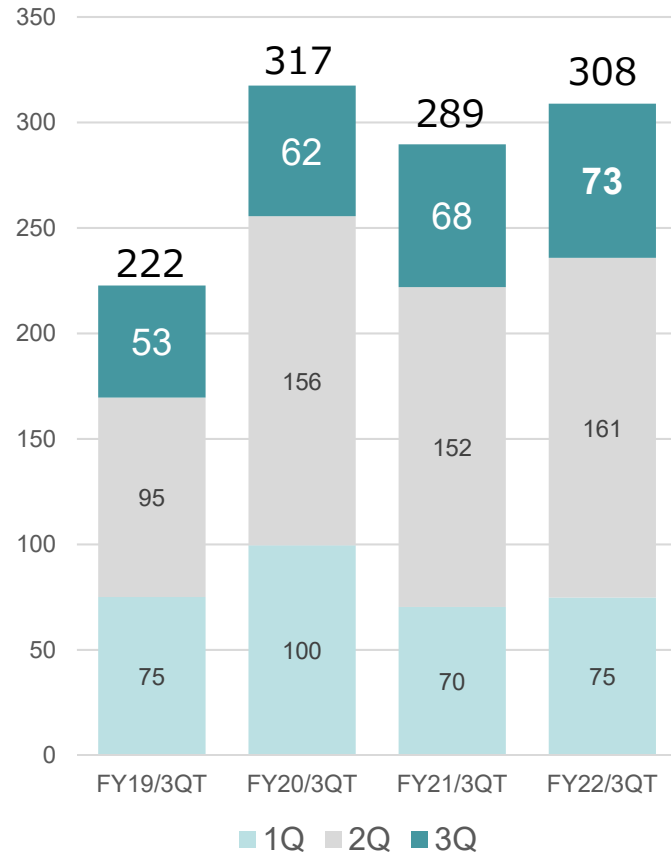
ヘルス&ウェルネス事業（3Q累計）



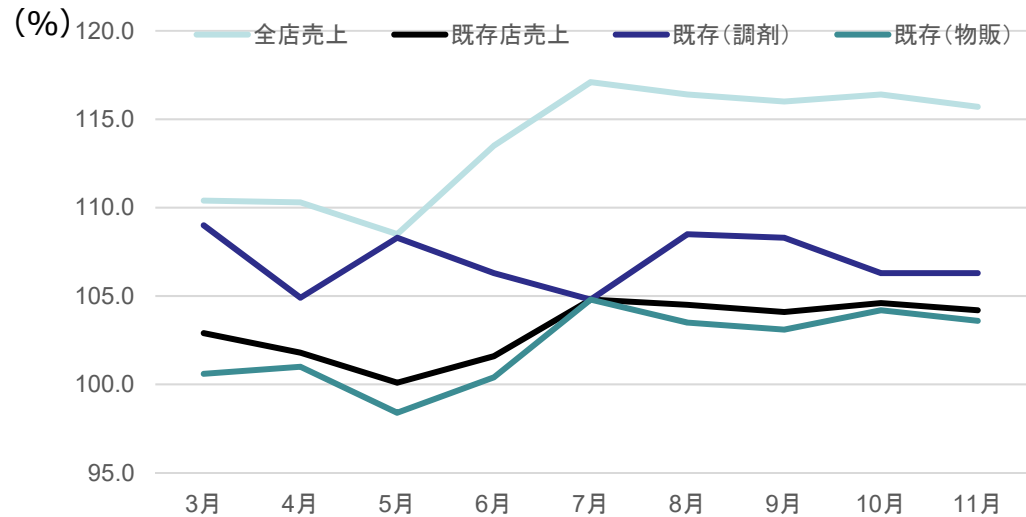
- ・調剤併設店舗でPCR等検査無料化事業に引き続き取り組む。コロナ感染者数の増加もあり、抗原検査キットや風邪薬、解熱剤などの販売につながる
- ・薬価改定の影響を受けるも調剤部門の売上・荒利は前年・想定を上回る

【セグメント利益】

(億円)



【ウエルシアHD 前年比の推移】



ウエルシアHD

成長戦略

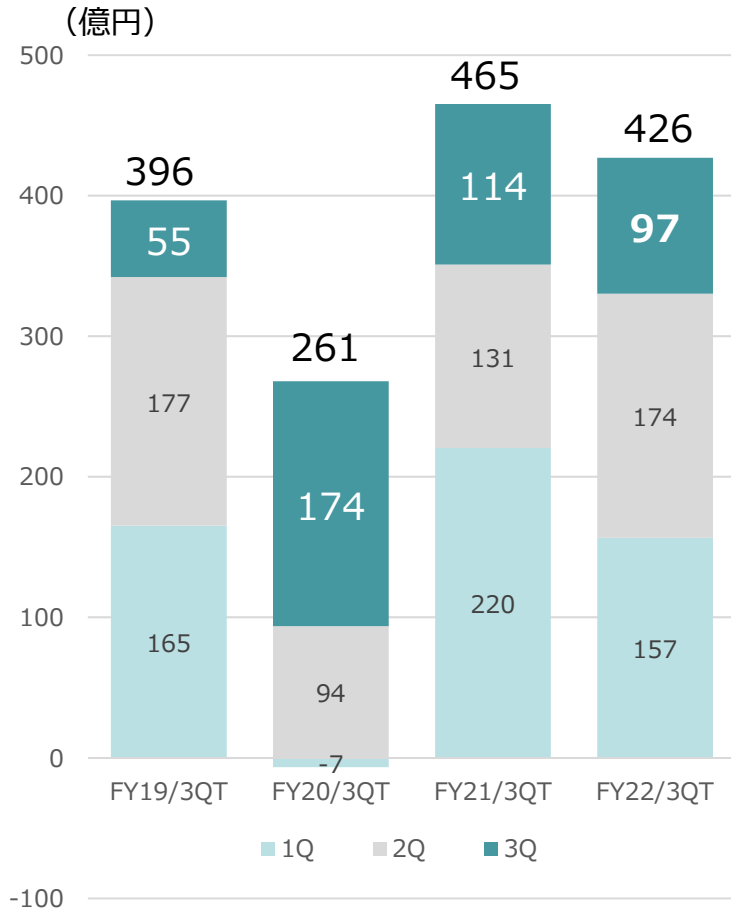
- ・調剤併設店舗（国内） 1,977店（併設率74.4%）
- ・新規出店（国内） 111店
- ・6月 コクミン・フレンチを子会社化
- ・グループ店舗数 2,716店

総合金融事業（3Q累計）



- ・セグメント利益がコロナ前水準を上回る
- ・海外：各種取扱高と営業債権残高は拡大。デジタル化により生産性が向上し増収増益
- ・国内：クレジットカードのショッピング取扱高の回復、リボ債権残高は前期末を底に再拡大

【セグメント利益】



【イオンフィナンシャルサービス エリア別業績】

(億円)

	営業利益	前期比	
海外	319	122%	・販促施策を強化し取扱高・営業債権残高は拡大
国内	101	56%	・カードショッピングの回復 ・キャッシング取扱高は伸長

【各種取扱高、営業債権残高状況】

(億円)

		実績	前年比 (増減)	19年比 (増減)
ショッピング	取扱高	50,698	111%	110%
	営業債権残高	11,672	+1,032	+713
キャッシング	取扱高	3,568	117%	85%
	営業債権残高	5,224	+301	-455
個品割賦	取扱高	2,373	120%	85%
	営業債権残高	6,596	+593	+729

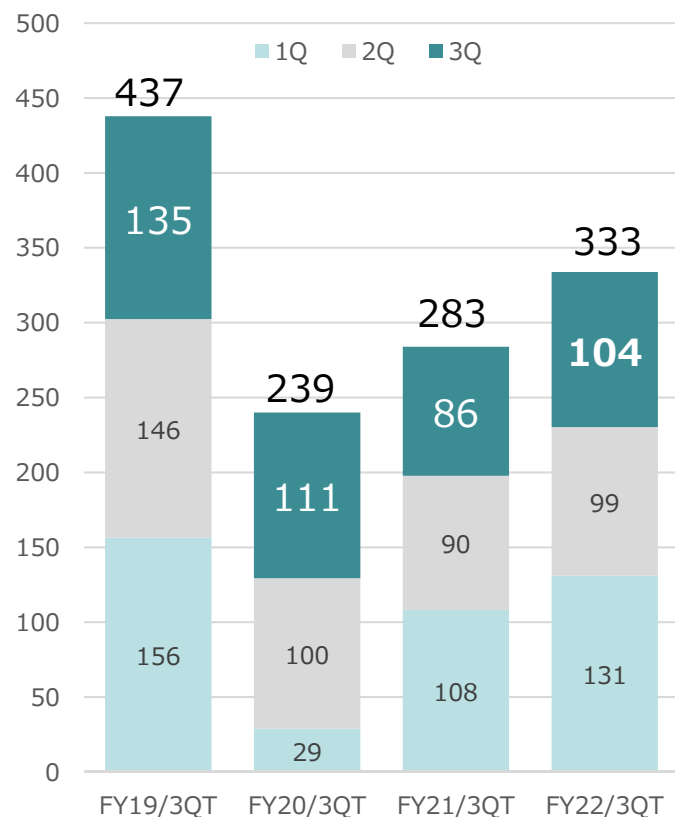
ディベロッパー事業（3Q累計）



- ・営業利益は前年から49億円の増益
- ・A M国内の専門店売上は、10月に19年度比105.1%に伸長
- ・A Mベトナムの専門店売上は大幅改善、中国は7月に19年度実績を上回る

【セグメント利益】

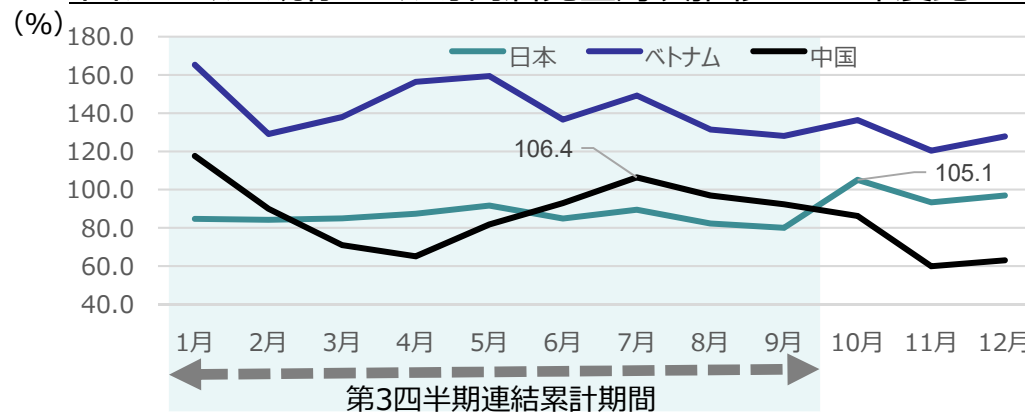
(億円)



イオンモール 既存モール専門店売上高対比 ※1 (%)

	2021年度比			2019年度比		
	1Q	上期	3Q累計	1Q	上期	3Q累計
日本	112.9	111.5	110.0	88.0	86.8	88.5
ベトナム	113.8	156.8	222.6	145.2	147.6	143.6
カンボジア	135.0	198.3	196.4	87.5	93.7	93.0
インドネシア	136.3	123.5	145.9	71.8	75.1	75.4
中国	85.0	80.5	86.8	94.4	87.8	91.4

イオンモール 既存モール専門店売上月次推移2019年度比 ※2 (%)



※1 インドネシアは、既存モールの来店客数対比

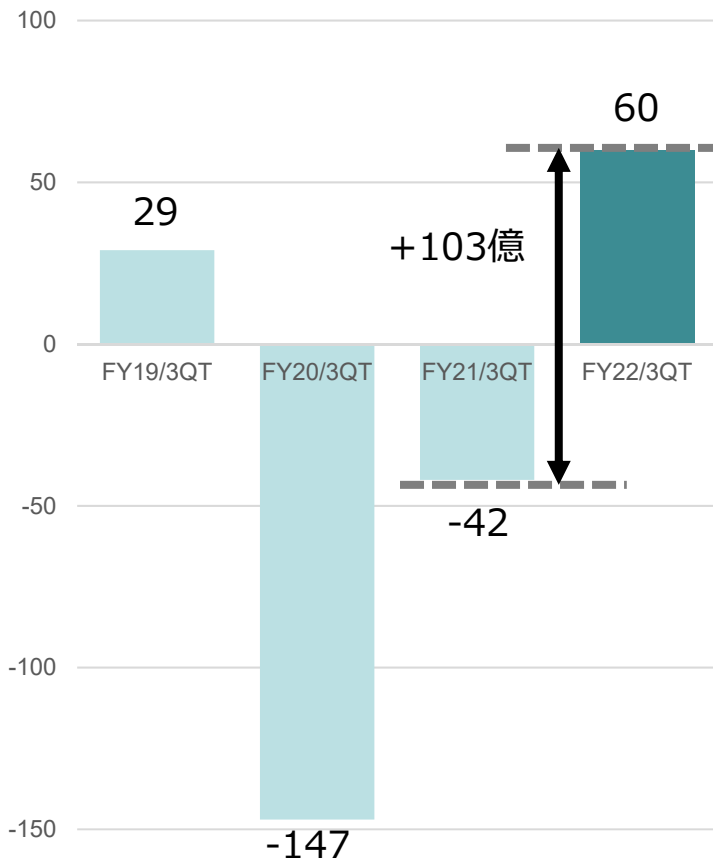
※2 ベトナム・中国の第3四半期連結累計期間（1月～9月）を網掛け。

サービス・専門店事業（3Q累計）

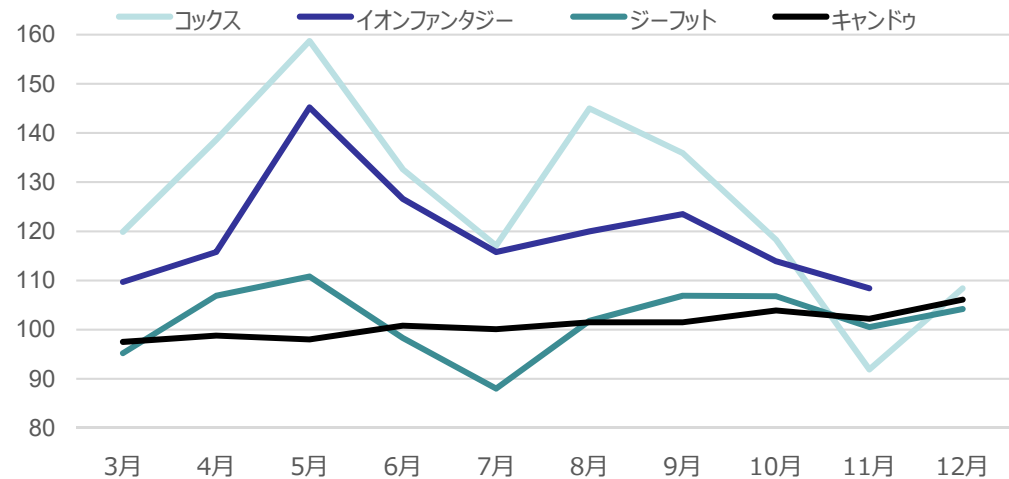


- ・前年から黒字転換。100億円を超える損益改善
- ・コロナ規制で集客面で影響を受けていたアミューズメント系の企業が改善に貢献

【セグメント利益】
(億円)



【既存店売上高前年比（国内）※】
(%)



【アミューズメント系の企業の業績】

	(億円)	
	営業収益/ 売上高	営業利益
	前年比	前年差
イオンエンターテイメント	135.8%	+35
イオンファンタジー（連結）	123.8%	+38

※ 「月次連結営業概況」を参照（イオンファンタジーは1月12日時点で12月度は非開示）

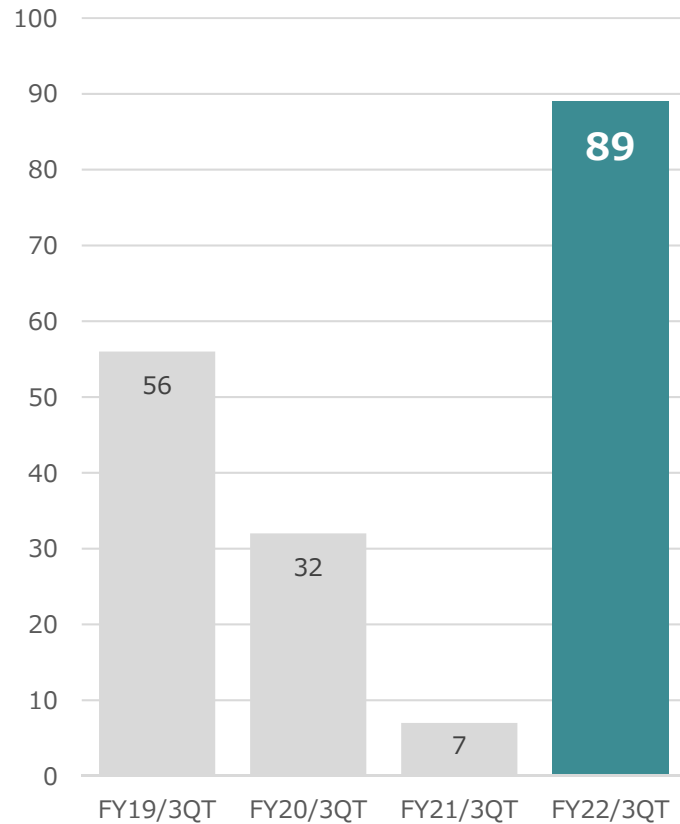
国際事業（3Q累計）



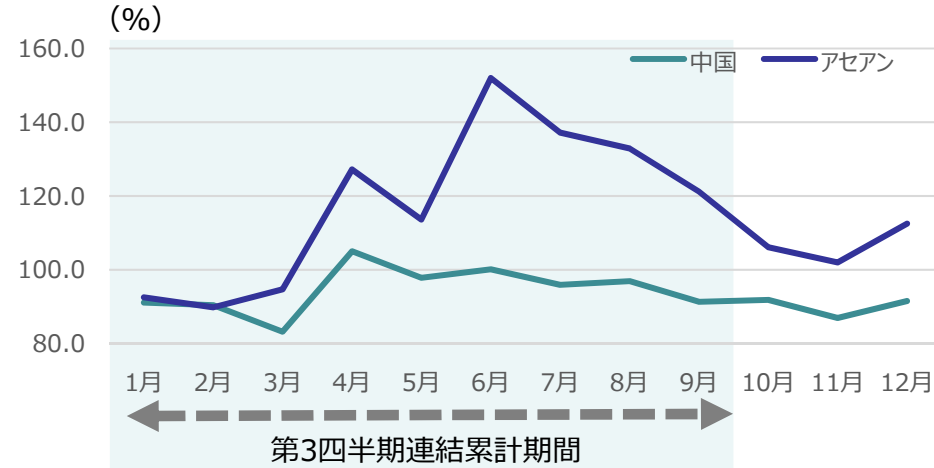
アセアン：イオンマレーシア、ベトナムを含む4社が増収、増益・損益改善
 中国：コロナ影響が厳しい環境下でも5社が増収、増益・損益改善

【セグメント利益】

(億円)



【中国・アセアン各社※ 既存店売上高前年比】



【アセアン・中国における業績】

(億円)

	営業収益	営業利益
	前年比	前年差
アセアン	129.2%	+70
中国	115.6%	+9

12月度・年末年始の状況

事業別12月度・年末年始の売上状況



・クリスマス、年末から初売りにかけての年間最大商戦の売上は好調に推移

事業別同日既存店売上高前年比（売上速報※1）

(%)

事業	12/1-12/31	12/23-12/25	12/26-12/31	1/1-1/3
	12月度	クリスマス	年末	初売り
GMS	105.3	114.1	101.3	103.3
SM	103.4	109.8	100.3	104.1
DS	102.2	108.8	100.5	99.1
ヘルス&ウェルネス	110.6	106.9	116.7	108.8
サービス・専門店	105.3	116.1	86.5	100.3
ディベロッパー	102.6	122.1	88.4	101.6
中国	91.5	90.4	88.5	96.1
アセアン	112.5	125.1	116.1	114.1

業績予想



・期初予想に変更なし。第3四半期は概ね想定線での進捗

【2022年度 業績予想】

(億円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (予想)	前期比・差
営業収益	86,042	86,039	87,159	90,000 92,000 <small>旧収益認識基準</small>	- (+5.6%)
営業利益	2,155	1,505	1,743	2,200 ~2,100	+456 ~+356
経常利益	2,058	1,388	1,670	2,100 ~2,000	+429 ~+329
親会社株主に帰属 する当期純利益	268	-710	65	300 ~250	+234 ~+184

The AEON logo is centered on a white background. It features the word "AEON" in a bold, purple, sans-serif font. A purple, three-dimensional ring with a gradient from light to dark purple is positioned horizontally, passing through the middle of the letters "E" and "O".

AEON

2022年11月末 連結貸借対照表



(億円)

資産の部 (主要項目のみ)	2022/2	2022/11	前期末差	負債・純資産の部 (主要項目のみ)	2022/2	2022/11	前期末差
現預金	11,722	10,667	-1,054	支払手形・買掛金	9,755	11,061	+1,306
受取手形・売掛金 (割賦売掛金含む)	16,550	19,403	+2,853	有利子負債 (金融子会社除く)	22,031	23,266	+1,235
たな卸資産	5,551	6,344	+792	有利子負債 (金融子会社)	10,878	12,333	+1,454
営業貸付金・銀行業 における貸出金	28,356	30,711	+2,354	銀行業における預金	41,734	43,269	+1,534
有形固定資産	31,308	33,961	+2,652	負債合計	98,206	105,016	+6,809
投資その他資産	9,901	10,127	+225	株主資本	8,977	8,789	-188
資産合計 (金融子会社除く)	116,330 (57,267)	124,659 (62,693)	+8,328 (+5,425)	純資産合計 (金融子会社除く)	18,124 (14,148)	19,643 (15,424)	+1,518 (+1,275)
				負債・純資産合計 (金融子会社除く)	116,330 (57,267)	124,659 (62,693)	+8,328 (+5,425)

参考資料1

配当予想



	2021年度	2022年度 (期初予想から変更なし)
第2四半期末	普通配当 18円	普通配当 18円
期末	普通配当 18円	普通配当 18円
合計	普通配当 36円	普通配当 36円

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている 見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- この資料の著作権はイオン株式会社に帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。